

トルコ金融政策（2020年11月）

市場予想に応える4.75%ポイントの大幅利上げ

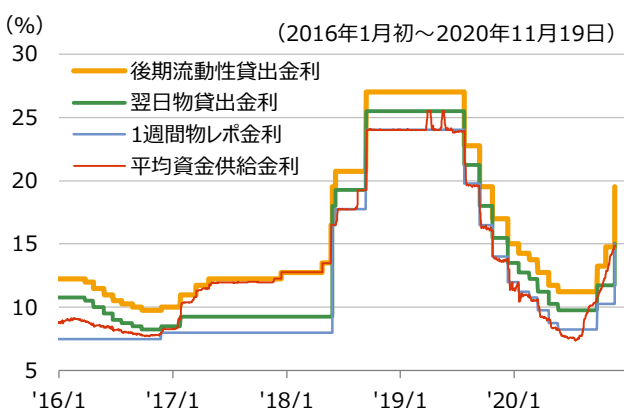
2020年11月20日

市場予想通りの大幅利上げと政策の透明性向上で中銀の信認を回復

トルコ中央銀行は11月19日（現地）、市場予想通り政策金利（1週間物レポ金利）を10.25%から15.00%に引き上げると発表しました。また、市中銀行への資金供給は全て1週間物レポ金利を通じて実施すると明言しました。すでに平均資金供給金利【図表1】が直近で14.87%まで上昇しているため、利上げの追加的な金融引き締め効果はほぼありません。それでも、これまでの後期流動性貸出金利などを用いた分かりづらい政策を一掃し、金融政策の透明性を向上させたことは中銀の信認回復につながります。更に、「今後は、物価に影響を与えるすべての要因を考慮し、恒久的なインフレ率の低下が達成されるまで、金融引き締めを断固として維持する」とも述べています。これが早期の追加利上げを示唆するかは判然としませんが、これまでのトルコ中央銀行にはみられなかったインフレ抑制に対する強い決意を感じます。

発表を受けてトルコ・リラは上昇しました。もっとも、今後の動向は海外からトルコへの証券投資がカギを握りそうです。2018年の通貨急落と大幅利上げの後、経常収支【図表2】が黒字に転じたこともあり、リラは底堅く推移しました。しかし、現在は新型コロナウイルス問題により観光業が打撃を受けているため、サービス黒字による押し上げは期待しがたい状況です。また、足元では主要輸出相手国である欧州で感染が再拡大したため、同地域の景気下振れがトルコの輸出の足かせになる可能性が高まっています。以前よりも経常収支が改善しづらい状況となっていることから、為替の需給面では証券投資の資金フローがより重要性を増しています。現在の金利水準ではまだ債券市場への安定的な資金流入は期待しづらいとみられますが、通貨安圧力に対しては追加利上げで対応するとの期待があるため、リラが急落するリスクは少なからず低下したと考えられます。

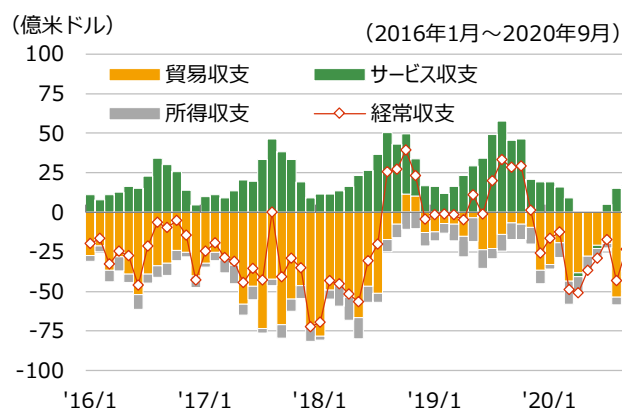
図表1：各種金利



※平均資金供給金利は、トルコ中央銀行が市中銀行に供給した資金の金利をその金額で加重平均したものです。

（出所）ブルームバーグ

図表2：経常収支



（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。